

着物家 伊藤仁美

纏う会

『着物を纏うことは、一枚の生地からなる平面の着物を、立体の身体にフィットさせていくことです。目を閉じて身体感覚に意識を向けると、少しずつ五感がひらき、着物は苦しいという意識から、温かく包み込まれてるような心地の良い感覚に変わっていきます。あなたの中にある静寂に触れ美しさに気付く、それはまるで身体性をともなう瞑想のような時間。心が満ちるその瞬間をお楽しみ下さい。』

着付け教室の後は、講師の伊藤が季節を感じる至極の一点として選んだ白洲正子の着物を目の前にしての「着物語り」そして、希望者は、正子のお気に入りであった茅葺の母屋の縁側へ移動して、撮影をお楽しみいただきます。



2025 年 5 月 11 日(日) 開催

13時～15時(着付け教室 70分・お話 30分・撮影 20分)

- ◆ 会場：旧白洲邸 武相荘
- ◆ 参加費：16,500 円(税込)
- ◆ お持ち物：着物一式 ※別途料金にてレンタル可

着物、長襦袢、肌着、足袋、腰紐(4本)、伊達締め(2本)、タオル3枚、あれば着物クリップ、襟芯、半幅帯 or 名古屋帯、帯板、ぞうり(名古屋帯の方のみ：帯揚げ、帯締め、帯まくら)

◆ お申し込み・詳細は

武相荘ウェブサイト buaiso.com より

着物家／伊藤仁美

京都の禅寺である 650 年以上歴史を持つ両足院に生まれ、日本古来の美しさに囲まれて育つ。長年肌で感じてきた美を、着物を通して未来へ繋ぐ「日本の美意識と未来へ」をテーマに活動。

京都で培った一般から芸舞妓までの高度な着付け技術を持ち、20 年に渡り各界の著名人への指導やメディア連載、広告撮影などに携わる。国内外の企業やブランドとのコラボレーション、企業研修、講演も多数、海外メディアにも掲載される。

主宰する「纏う会」では、古来より受け継がれる技術を軸に、着物を纏う過程で鏡を使わない独自の着付けメソッドを通して、感性を開く唯一無二の着物の世界を展開。

その源流は生まれ育った禅寺の教えにある。

こだわりの形にしたオリジナルブランド「ensowabi」を発表するなど着物の可能性を追求し続けている。